5年『西六郷を災害に強いまちに！』

単元のめあて

地域の防災に関わる方と連携して六郷地域の自然災害に関する課題について知り、それを解決するために地域の防災訓練に参加したり、そこで得た地域の声を町会や区へ還元したりする活動を通して、情報収集の仕方や得た情報を整理・分析して相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能を身に付け、自然災害に強い安心・安全なまちづくりを推進するための課題を発見して、試行錯誤しながら解決するとともに、主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

実社会で活躍する人との連携

防災についての専門家から、防災や被災時の取組等を話していただくことで、地域の防災についての児童の理解を深めるとともに、防災についての課題意識をもたせるきっかけとした。また、児童の発信内容について、各機関からフィードバックをいただき、再度課題解決に向けて活動することで、試行錯誤しながら粘り強く取り組む態度を養った。

- 大田区役所防災危機管理課
- 西六郷二丁目町会防火防災部
- 公益財団法人市民防災研究所
- 尾西食品株式会社
- 南三陸 311 メモリアル

学習サイクルと振り返りの工夫

グループごとに発信の準備をしていく段階では、「調べる→話し合う→発表する→アドバイスを受ける→改善案を考えて練り直す」を繰り返し、自分たちで計画的に学習を進められるようにした。

毎時間の振り返りの際は、「Y：やったこと」「W：分かったこと」「G：疑問に思ったこと」「T：次に取り組むこと」という視点を提示することで、自分の成果をしっかりと振り返るようにした。振り返りカードの冒頭には、めあてを記入する欄も設け、前の時間の「T：次に取り組むこと」をもとにグループや個人ごとにめあてを記入するようにした。振り返りカードはオクリンクプラスで記入し、他の児童や過去のものを確認できるようにした。

グループの編成･話合いの工夫

グループ編成については、児童が意欲をもって活動できるように、児童が出し合った項目の中から、自分が紹介したい内容のグループに所属できるように希望をとった。また、少人数で意見を出しやすくするように４～５名でグループ編成を行った。

グループで発信内容の改善案を出し合って話し合う場面では、発想法株式会社が提案する「発想法マスオ」を用いた。「発想法マスオ」を用いた話合いでは、まず、個人でマス目のついた用紙「マスオ」に言葉や図を用いて自由にアイデアを紡ぎ出し、その後、お互いの「マスオ」を見せ合いながら、自分の考えに至った流れをグループ内で共有した。「発想法マスオ」を用いることで、話し合うためのもととなる個人の意見を多く出させることができた。アイデアを多く出す手立てを講じることで、話合いを活性化させるようにした。

ICT の活用

「クリエイション」では、地域の防災訓練で「Google スライド」を用いたプレゼンテーション発表を行った。グループでスライドを共有し、共同編集で発表準備を進めていった。発表原稿についても「Google ドキュメント」の共同編集機能を用いた。他グループのスライドや原稿も閲覧できるようにし、よいところを参考にしながら進められるようにした。

毎回の学習の振り返りはオクリンクプラスで記入し、提出ボックスに提出させることで、過去のものを確認できるようにし、学習の積み重ねを実感できるようにした。

- Google スライド：発表のための資料作成
- Google ドキュメント：発表のための原稿作成
- Google フォーム：アンケートの作成・結果の分析
- オクリンクプラス：学習の振り返り、意見の集約

成果と課題

- 「発想法マスオ」を用いたことで、従来取り組んできたブレインストーミングよりも個人の意見量が増加し、話合いが活性化した。一方で、意見の内容の深まりが不十分であった。
- 発表内容の改善を目的とした話合いでありながら、発表方法や声量・表現などに話が偏ってしまうグループが複数存在した。改善案を考えるもととなるフィードバックの質を上げる手立てが必要である。授業パートナーなど実社会で活躍する人との活動の量や密度を高めていくことも検討していく必要がある。
- 児童の中で、活動の目的や必要感がまだまだ希薄であった。コンセプトを明確にした上で児童の中にもっと根付かせ、何度も立ち返らせるとともに、アウトプットではなくアウトカム（社会実装の成果・影響）までを目的とした学習にまで深化させていくことが必要である。